

アイデアの芽吹き ~vol.67

加盟店様の事例、他業界の取組み、商品の使用感等アイデアの「種 (SEEDS)」となる情報を毎月中頃に配信！



その『楽をしたい』が業務を救う!? ~ムダを見つけて効率アップ~

車、エスカレーター、メール...世の中に普及している商品やサービスは『楽をしたい』という欲求を満たすものが多いと聞きます。今回は『楽をしたい』発想から生まれる業務改善についてご紹介させていただきます。



<「怠け者のほうがよく働く」と考えるタニタ社長>

「タニタ食堂」で一躍話題になった株式会社タニタ。1923年設立で、創業当時はシガレットケースや貴金属宝飾品を造っていたそうですが、現在では体重計や体組成計などの「はかり」の製造・販売が主な事業内容です。3代目である谷田千里社長は、「自分は怠け者で楽をしたいという考えが根底にあり、**どうせ行うなら1粒で2、3度おいしいほうが良い**と考えている」とのこと。



それが人生訓であり、ビジネスの発想もそこから生まれるそうです。谷田社長によれば、コンピューターでの発注作業を例にとると、注文書から入力→発注処理→在庫確認→発送手配という流れの仕事があるとすると、プログラムで自動化出来ないか、ボタン1つ押せば終わる方法はないかと必死で模索すること。「**なんとか楽をしたい**」と考える怠け者のほうが頭を使い、よく働くと考えているそうです。



タニタ社員の健康プログラムも、発端は歩数計や体組成計などで取ったデータをパソコンや携帯で健康管理出来る商品が赤字で、社員に業務命令で無理やり使わせたところ、平均体重が3.6キログラム減って、体脂肪率も1.6%下がり、医療費まで下がったのだとか。社員が健康になり、かつ新たなビジネスが生まれた、まさに「1粒で2、3度おいしい」を実現した事例だそうです。

<実は、脳は『慣れている』ことが『楽』>

人間には、熱が上がったら平熱に戻そうと汗をかくたり、ダイエットしても元の体重に戻ろうとしたりする「ホメオスタシス」という恒常性維持機能が備わっているそうです。この恒常性維持機能は心の分野にもあるそうで、脳は「今のままが安全」と感じているため、普段からの行動や習慣は考えなくても当たり前のように出来るけれども、新しいことを行おうとすると3



日坊主になってしまう...というように、**脳は変化をとて嫌う**そうです。そのため、はたから見れば非効率的で面倒に思えることでも、慣れている人からすると、**慣れている方法のほうが脳は『楽だ』と感じている**ため、『楽をしたい』とあれこれ模索する人のほうが、実は楽をしていないと言えるのかもしれない。

<『楽をしたい』がムダを見つけ、業務改善に繋がる？>

前述のように、慣れていれば脳は『楽』と感じているならば、ひとまず今行っていることを「これがこの職場でのやり方だから」と当たり前と思わず、「**もっと楽にならないだろうか？**」「**これは無駄なのではないだろうか？**」と考えるところから始めると良いのかもしれない。なお、仕事のムダを見つける方法として「MPU」という枠組みがあり、この「気づき」から効率化を図れるそうです。



・Method Ross(方法ロス)

作業のやり方によるロス。例えばエクセルの表を手入力で作成していると半日かかるのが、プログラムを組むとボタン1クリックで済むなど。

・Performance Ross(能率ロス)

仕事の習熟度による個人間のバラツキ。ベテランは経験上理解していることを新人さんは理解していないなど。

・Utilization Ross(活用ロス)

仕事をする時間としない時間にムラがあること。

<改善のご希望があればお尋ねください>

SEEDSには、様々なオプション機能(※)や帳票がございます。お使い頂いているなかで、「いつも手で作っているこの表、SEEDSから出ないだろうか?」「こうなればもっと手間が減るのに」など、何かしら面倒に感じておられる点がありましたら、インスト担当やサポート担当へお尋ねください。ご希望に沿えない場合もございますが、お声が多い内容については全ユーザー様共通で修正をさせて頂くこともございます。皆さまの業務改善に繋がるお声をお待ちしております。※オプションは有料機能もございます

